

システムからの治療的逸脱を指向する心理療法の一 手段としての芸術療法

佐々木, 玲仁
九州大学

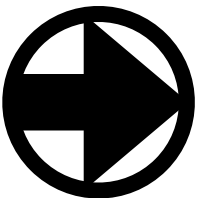
<https://hdl.handle.net/2324/7396334>

出版情報 : 2019-12
バージョン :
権利関係 :



心理療法とは

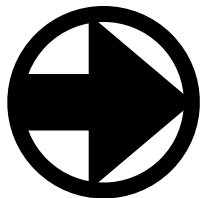
「悩みや問題の解決のために来談した人
に対して、専門的な訓練を受けた者が、
主として心理的な接近法によって、可能
な限り来談者の全存在に対する配慮をも
ちつつ、来談者が人生の過程を発見的に
歩むのを援助すること」 河合(1992)



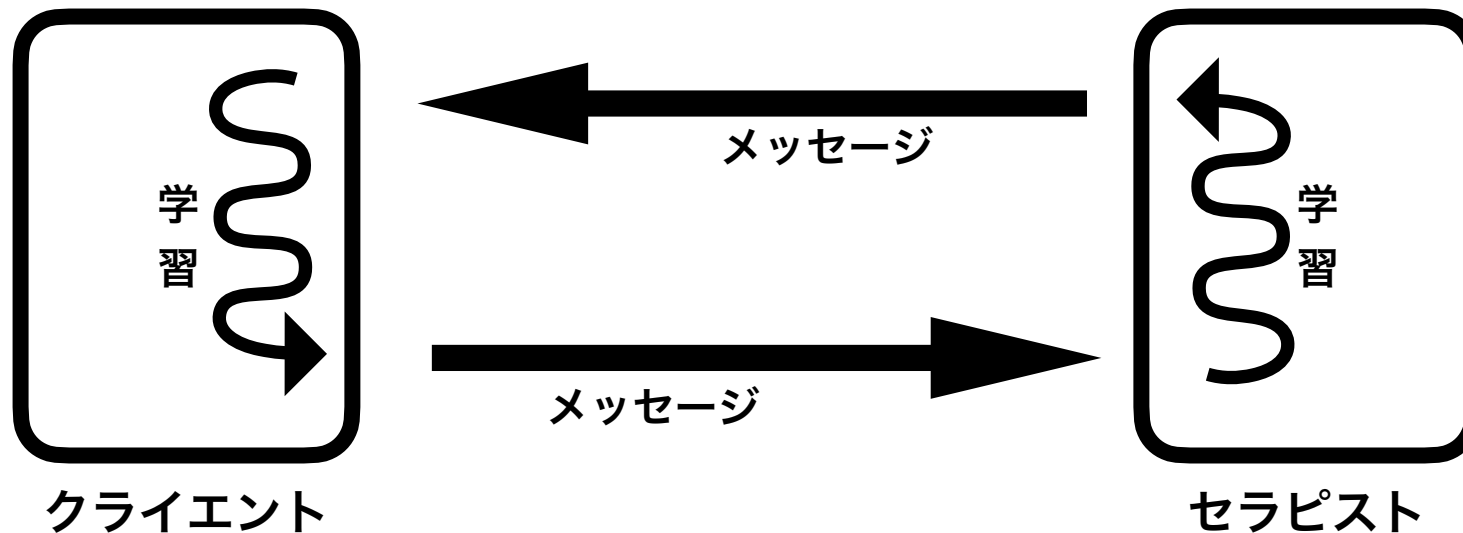
心理療法には二種類しかない

学派は精神分析，認知行動療法，分析心理学，
来談者中心療法，など複数あるが，**学派横断的**
に大きく以下の二つに分類される

- ・ システム**維持**を志向する心理療法
- ・ システムからの**治療的逸脱**を志向する心理療法



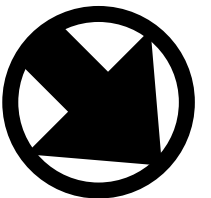
心理療法におけるコミュニケーション



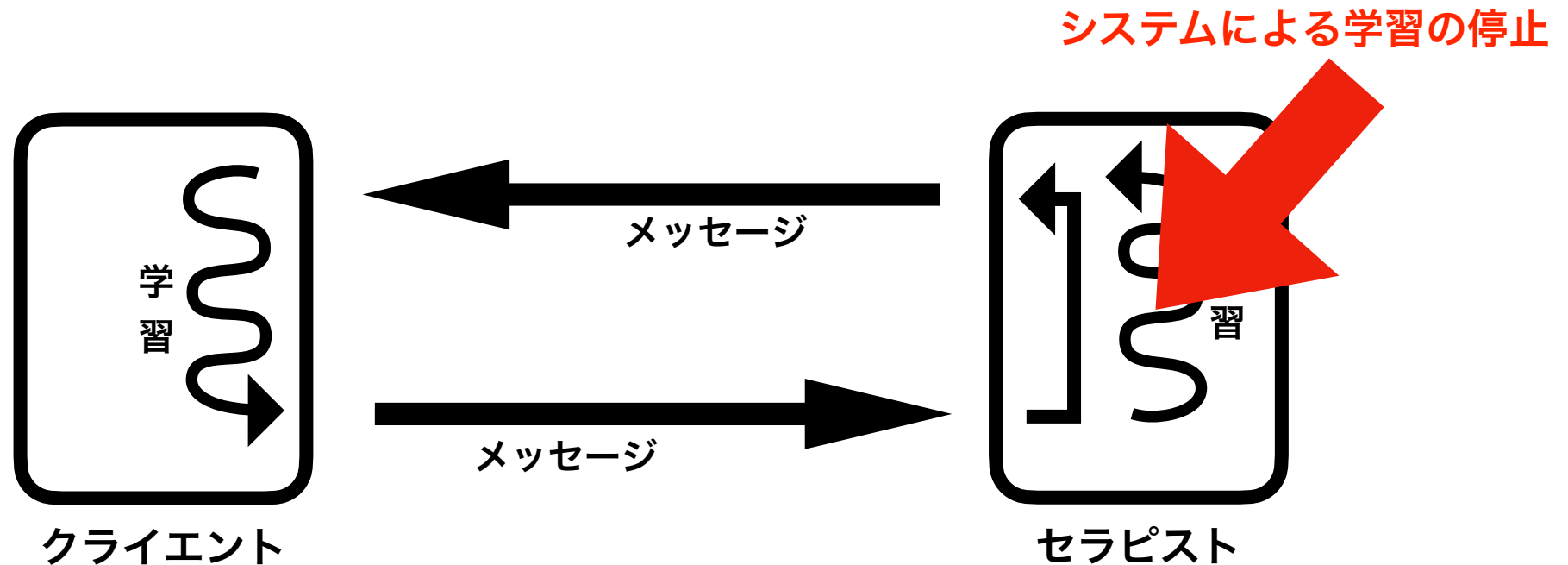
クライアントとセラピストにより、**メッセージと学習のループ**が成立している

→心理療法の共創性

安富（2008）の図をもとに筆者により作成



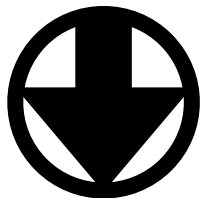
心理療法におけるコミュニケーションの停止



セラピストが目の前のメッセージより何らかのシステムを優先してしまい**学習が停止**するため、**コミュニケーションのループが不成立**に終わる

→心理療法の共創性の阻害

安富（2008）の図をもとに筆者により作成



学習を停止させる各種の「システム」

社会システム

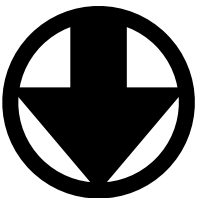
文化システム

心理療法の学派システム

日常生活や専門家としての臨床活動を支える種種のシステムが、
心理療法空間の中では（特にセラピスト側の）学習過程を止めてしまい、
目の前のクライアントより背後にあるシステムの維持を優先してしまう。

…システムからの治療的逸脱が停止

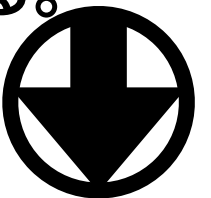
→システム維持へ



学習を停止させる各種の「システム」

社会システム

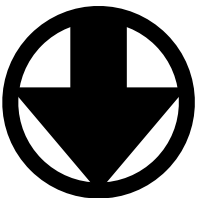
- 例として教育システムを挙げる
- 現行の教育システム上、不登校の子どもに対して登校に誘導する強い社会的な圧が存在する。社会的には不登校という事態への理解が以前よりも進んだとはいえ「学校に行けるに越したことはない」という前提があつての「理解」ある以上、不登校と呼ばれる状態にある子どもには常に強風に晒された状態である。
- セラピストとクライアント両方に学習を停止する圧力がかかる。



学習を停止させる各種の「システム」

文化システム

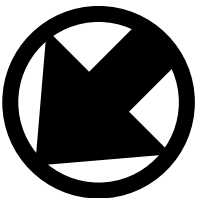
- ・ 例として日本の文化システムとしての同調圧力を挙げる
- ・ 面接室の外で「他の人はどうしているか」を意識することで面接の場での学習が止まる
 - クライアントにもセラピストにも生じる



学習を停止させる各種の「システム」

心理療法の学派システム

- 最も致命的で心理療法家が気づきにくい
- 認知行動療法，精神分析，分析心理学などのそれぞれの学派によらず汎学派的に生じる
- 心理療法家が，現在眼前で展開している事象よりも自身の属する学派の理論を優先して心理療法の場を理解しようという態度で心理療法に臨んでしまう場合がある
 - セラピスト側の学習の停止

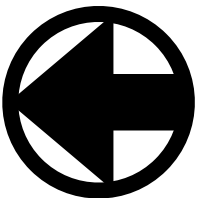


治療的逸脱を生む芸術療法

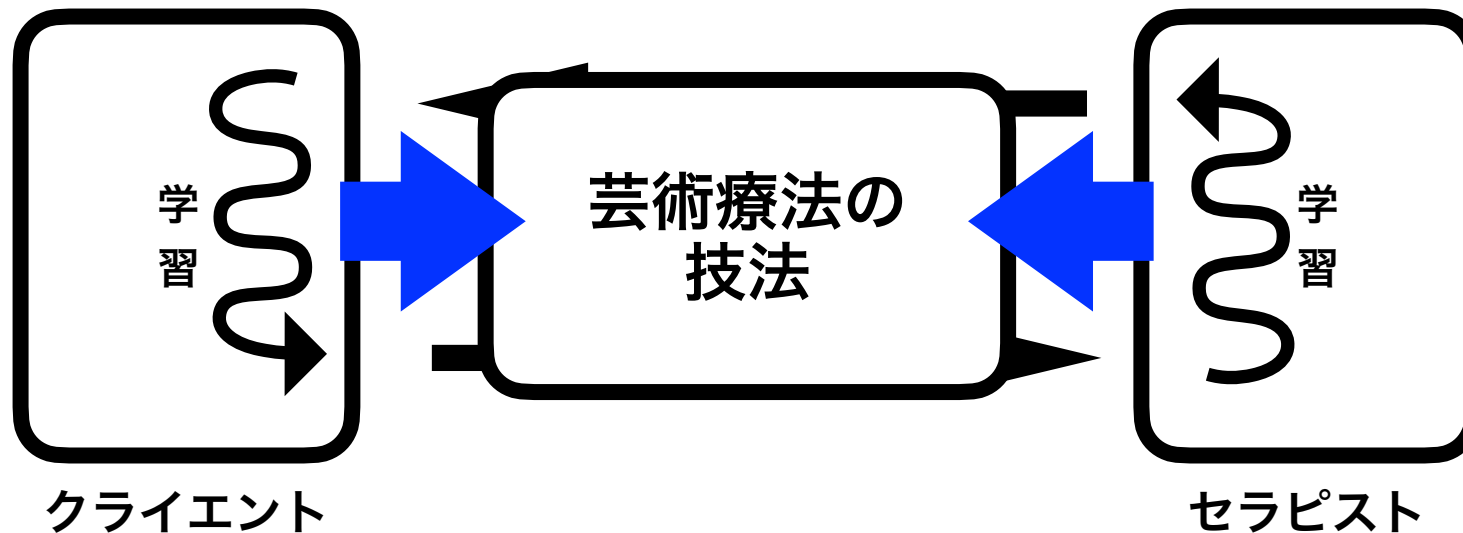
芸術療法：心理療法の中で、何らかの意味で
芸術の技法を用いるもの
描画，音楽，造形，ダンス，詩歌など

芸術そのものではない

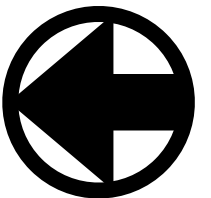
「たどたどしい一本の線と“芸術性”の高い
完成画とを「哲学的に対等」とみなす用意
が必要である」（中井，1970）



心理療法における**芸術**療法の機能

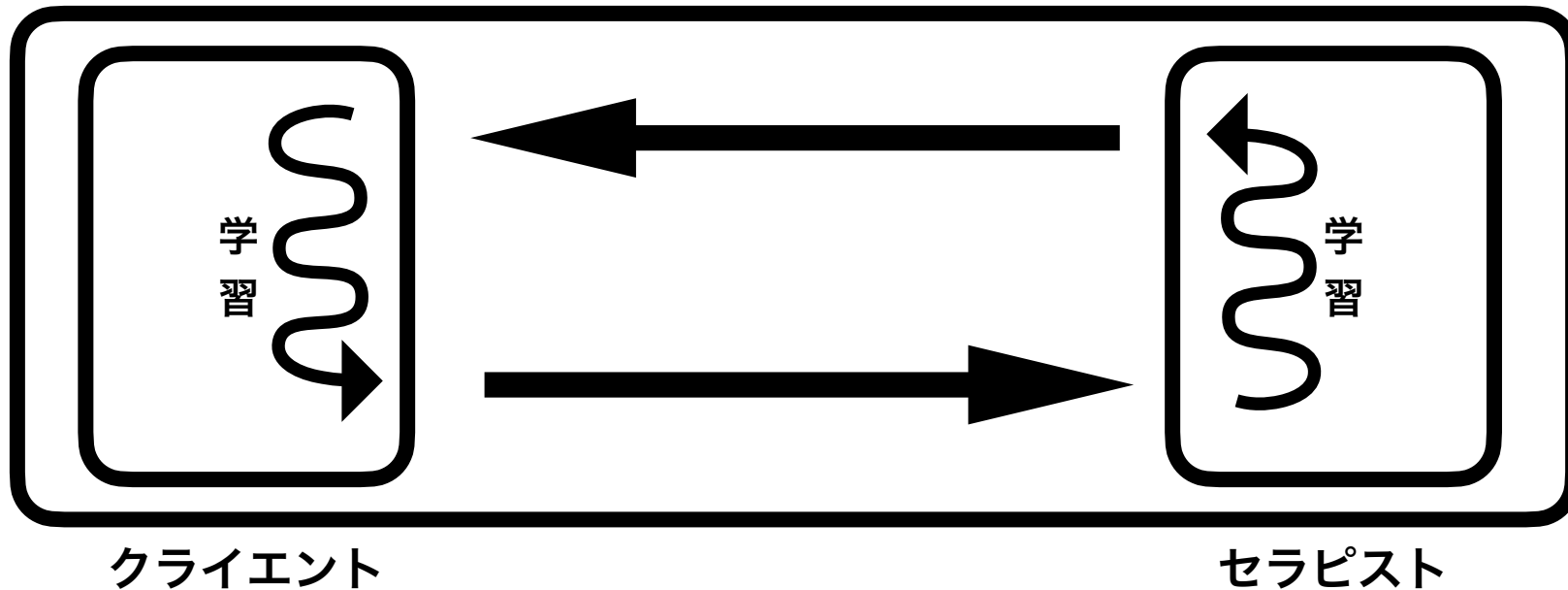


クライアントとセラピストは、**メッセージと学習のループ**というよりも、
芸術療法における「芸術」により技法に吸引されていく

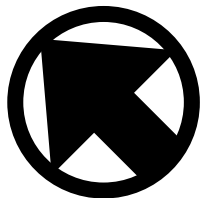


心理療法における芸術療法の機能

芸術療法の技法



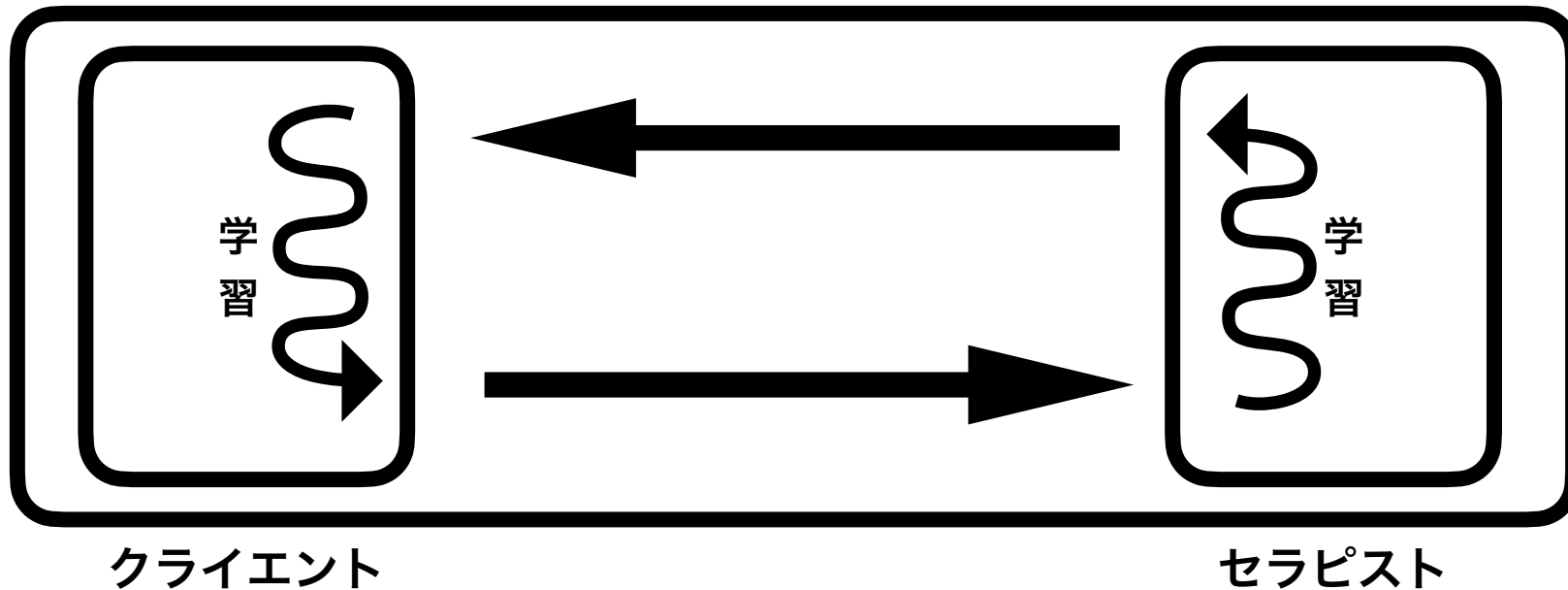
クライアントとセラピストは、**芸術療法の中で**メッセージと学習のループを生成する



心理療法における芸術療法の機能

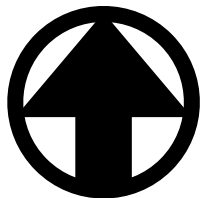
システムによる学習の停止が生じない

芸術療法の技法

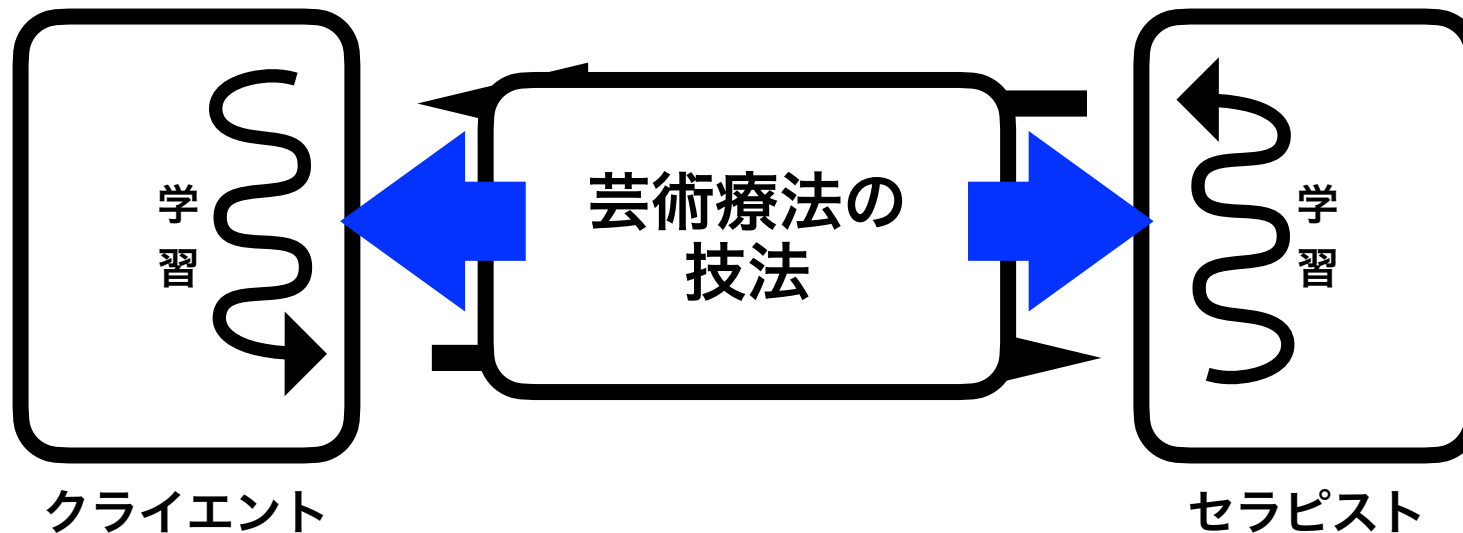


クライアントとセラピストは、**芸術療法の中で**メッセージと学習のループを生成する

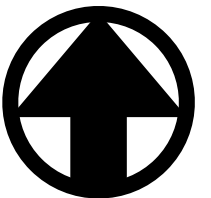
安富（2008）の図をもとに筆者により作成



心理療法における芸術療法¹の機能

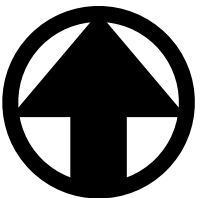


クライアントとセラピストは、芸術療法における「療法」の性質により、芸術療法のそとにでてくることができる（技法の自然停止）。

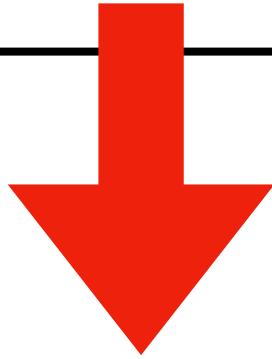


学習を停止させる各種の「システム」を 停止させるものとしての芸術療法

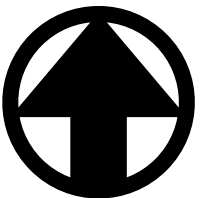
- ・ 芸術療法は芸術ではないが、芸術の性質としてクライアントとセラピストをその内部に吸引していく。
- ・ 社会，文化，学派などの外部システムを芸術の独立性でキャンセルできる。
- ・ 療法としての芸術療法は，クライアントとセラピストがその内部に留まることを許さず，心理療法空間に二人を戻す。



学習を停止させる各種の「システム」を 停止させるものとしての芸術療法



- システムからの治療的逸脱を生じさせる
- 逸脱からの帰還もその機能の中に含まれている
- 安全にシステムから逸脱できる
- 特に学派からの逸脱に慎重なセラピストに有効



今後の展開

- ・ 芸術療法の「復権」に向けて，その有効性を改めて示す
- ・ 現代芸術療法理論の生成
- ・ 心理臨床家教育における明示的な芸術療法の教育メソッドの生成

文献

中井久夫(1970)精神分裂病者の精神療法における描画の使用—とくに技法の開発によって作られた知見について—，芸術療法，2，77-90

河合隼雄(1992)心理療法序説，岩波書店

安富歩(2008)生きるための経済学〈選択の自由〉からの脱却，NHKブックス

安富歩(2006)複雑さを生きる —やわらかな制御，岩波書店.